

## <子宮頸部細胞診報告様式に関するお知らせ >

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。  
平素は格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

さて、子宮頸部細胞診報告様式「ベセスダシステム2001準拠」について日本産婦人科医会及び行政の対応として、2009年4月から施行の旨（日母分類からベセスダ準拠報告様式への移行を2年以内に完了とする）周知されているものと思われまます。つきましては、弊社病理部門における子宮頸部細胞診報告様式の対応についてお知らせ申し上げます。

弊社では2009年4月より、先ず公費検診（自治体専用検診票使用）のベセスダ準拠報告を開始いたします。通常の保険適用子宮頸部細胞診については、弊社従来同様の日母分類様式による報告となりますが、所見欄にベセスダ用語を積極的に取り入れる所存です（一部の報告に先行してベセスダ用語を既に取り入れております）。尚、弊社ベセスダ準拠報告書への移行は弊社細胞診依頼書の変更も含め、改めてご案内申し上げます。

ベセスダ準拠報告適用の際は、標本の適、不適評価があります。不適正となりますと再検対象となり、費用面での問題も生じますので、標本の過度な乾燥、塗抹過少、塗抹過多（厚）について十分ご注意願います。また、採取部位、採取器具、患者年齢、最終月経（閉経年齢）、妊娠の有無、ホルモン療法、臨床症状・経過、臨床診断に関する記載は婦人科細胞診報告に必須です。引き続き各記載を宜しくお願い申し上げます。

敬具

ベセスダ準拠に関する御質問、御問合せは弊社病理室までお願いします。  
(08-09総合検査案内に該当ページなし)

扁平上皮系

結果	略語	推定される病理診断	従来のクラス分類	英語表記	運用
1)陰性	N I L M	非腫瘍性所見、炎症	I、II	Negative for intraepithelial lesion or malignancy	異常なし：定期検査
2)意義不明な異型扁平上皮細胞	A S C - U S	軽度扁平上皮内病変疑い	II - III a	Atypical squamous cells of undetermined significance (ASC-US)	要精密検査： ①HPV検査による判定が望ましい。 陰性：1年後に細胞診、HPV併用検査 陽性：コルポ、生検 ②HPV検査非施工 6ヵ月以内細胞診検査
3)HSILを除外できない異型扁平上皮細胞	A S C - H	高度扁平上皮内病変疑い	III a - b	Atypical squamous cells cannot exclude HSIL (ASC-H)	要精密検査： コルポ、生検
4)軽度扁平上皮内病変	L S I L	HPV感染軽度異形成	III a	Low grade squamous intraepithelial lesion	
5)高度扁平上皮内病変	H S I L	中等度異形成高度異形成上皮内癌	III a III b IV	High grade squamous intraepithelial lesion	
6)扁平上皮癌	S C C	扁平上皮癌	V	Squamous cell carcinoma	

腺細胞系

結果	略語	推定される病理診断	従来のクラス分類	英語表記	取扱い
7)異型腺細胞	A G C	腺異型または腺癌疑い	III	Atypical glandular cells	要精密検査：コルポ、生検、頸管および内臓細胞診または組織診
8)上皮内腺癌	A I S	上皮内腺癌	IV	Adenocarcinoma in situ	
9)腺癌	Adenocarcinoma	腺癌	V	Adenocarcinoma	
10)その他の悪性腫瘍	other malign.	その他の悪性腫瘍	V	Other malignant neoplasms	要精密検査：病変検索

[Comments]